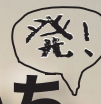


# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



January

January 2023 vol.105

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

## ◆ 愛知用水（牧尾ダム建設時殉職者慰霊碑）

所在地：長野県木曾郡木曾町三岳

交通：木曾町生活交通システム三岳王滝線

「二子持」停南西約1.2km

知多半島は丘陵性の地形であるため、大きな河川が流れ込まず、昔から水の確保に苦労してきました。ことわざ「知多の豊年米食わず」は、知多半島が豊作となる水の豊富な年は、他の地域では水害がもたらされ不作になる、そんな様子を表現したもので、それほど水の得にくい地域でした。

愛知用水は、知多半島に安定して水を供給するために整備された用水で、幹線水路112km、分岐した支線の総延長は1,012kmに及びます。水源は長野県木曾郡王滝村と木曾町にまたがる牧尾ダムで、岐阜県可児市と八百津町にまたがる兼山ダム湖に設置した愛知用水取水口から、愛知池、佐布里池、美浜調整池の3つの調整池を経て、日間賀島や佐久島まで水を送ります。農業用水としての機能に加え、水道用水、工業用水の機能も持ち、愛知県を支える重要なインフラとなっています。

愛知用水建設に向けた動きの中心となったのが、知多郡八幡村（現在の知多市八幡町）の久野庄太郎と愛知郡豊明村（現在の豊明市）の浜島辰雄でした。農家に生まれた久野は、勉学に励み水の重要性を実感し、明治用水の成功を知って、知多半島にも用水を引くことを決心します。同じく農家に生まれ、安城農林学校の教員であった浜島は、久野の活動を取り上げた新聞記事を読み、久野のもとを訪れ意気投合し、愛知用水運動を展開していくこととなります。二人が出会った昭和23(1948)年には、愛知用水開発期成

同盟会が結成され、年末には吉田茂首相にも陳情を行うなど、運動が大きく進展します。その後、愛知用水公団が設立され、世界銀行からの融資と技術的な支援を受けて、昭和32(1957)年に牧尾ダム工事に着手します。関係者の多大な努力の結果、昭和36(1961)年、愛知用水はわずか5年で完成し、知多半島に安定的な水の供給がもたらされました。

愛知用水の建設にあたっては、困難な工事を進める中、56名の方が殉職されています。久野は知多の陶芸家・柴山清風に依頼し、ダムの土を使い500体もの観音像を制作し、犠牲者が出るたびに弔いに出かけたとのこと。

愛知用水建設にまつわる記念碑や慰霊碑は各地にありますが、そのひとつが、牧尾ダム管理所構内の牧尾ダム建設時殉職者慰霊碑です。ダムが完成した昭和36年5月に建立されたこの慰霊碑には21名の殉職者の氏名が刻まれており、毎年7月には、慰霊碑前で愛知用水建設殉職者慰霊祭が行われています。また、佐布里池湖畔にある愛知用水神社と愛知用水水利観音堂では、毎年5月と11月の水利観音春季祭、秋季大祭で、殉職者の法要が行われています。

牧尾ダム管理所の構内にはこのほかにも、牧尾ダム完成記念碑や御岳湖碑石（御岳湖は牧尾ダムによるダム湖の通称）など、愛知用水にまつわる記念碑や慰霊碑があります。四季を通じ周囲の山々の彩りが織りなす御岳湖の美しい風景も絶品です。ぜひ一度現地に足を運んでみてください。



牧尾ダム建設時殉職者慰霊碑  
(水資源機構・愛知用水の碑写真集より)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

